

～ ふるさと復興協力隊員・市川真理子が、毎月お届けいたします ～

まりこ号

第12号

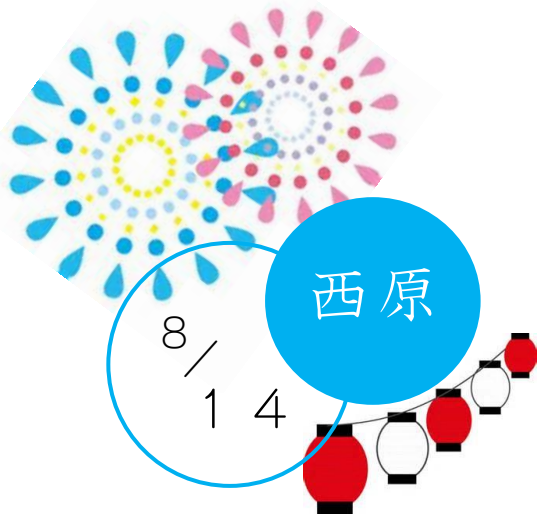
# 上北山村通信

## 盆踊り

村の外から見た目線で感じた、それぞれの魅力をご紹介します。  
昔から変わらない風景が、いつまでも続けばいいな、と心から感じました。  
上北山村の行事では、いつも、自分の生まれ育った地の大切さを実感します。

こんにちは。協力隊の市川です。私事ですが、ふるさと上北夏祭りが終了し、上北山村の行事ではじめて“二度目”を迎えました。昨年、「どんな村なのかな。」と緊張して訪れ、メッセージ花火で「9月からお世話になります。」と挨拶をして見渡したときに、全然知らない顔ばかりでした。一年経った今年は、知っている方が随分増え、喜びを感じると同時に、焦りを感じます。今月は、節目の月だと考えています。この一年間「教えてあげよう、何かしてあげよう。」と心尽くしてくださった方たち、見守ってくださっている村の皆様、いつも本当にありがとうございます。今年はどこにか、実践の一年にします！私たちにできることを、精一杯やります！応援していただけたら幸いです。よろしくお願いいたします。

### 「その場集った、みんなで楽しもう！」が伝わる、賑やかさ。

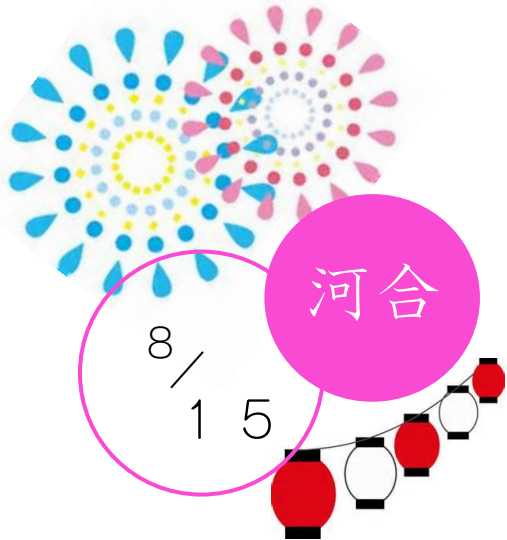


西原の盆踊りは、ふれあい会館前の広いスペースで行われます。「やりたいから、今年もやるぞ！」という気持ちが溢れている、温かい盆踊りです。準備での一体感とチームワークがすごいです。横たわっている大きな木製パーツを数人掛かりで、会場のだ真ん中に組み立てて行きます。年配の方が指揮を執りつつ、若者が動きながら、大がかりな作業を手慣れた様子で進めていけます。そして、このやぐらは村の大工さんの手づくり！今年で使うのは3年目だそうです。ここにしか無い手づくりのやぐらを、区のみんなの手で組んでいく姿が、すごくいいなあと感じました。色んな所にロープをくくり付け、「ここに電気をつけてほしい。」という希望にきちんと対応し合っている村の方たちの様子が、とても頼もしかったです。この方たちは、どこに行っても生きていけるだろうなあとひとり考えていました。個人的には、電球をはめ、提灯を引っかけるのすらもはじめてで、新鮮でした。(いかに家の手伝いをしていないか…)



盆踊りでは、82歳になる男性の音頭で、老若男女が踊ります。今は老若男女関係なく、みんなで楽しもう！という気持ちが伝わってくる、温かい盆踊りでした。「昔はほとんどの方が浴衣を着ていたが、今は着る人が減った。」と村の方が少し寂しそうにされていました。私から見ると、若者の可愛い浴衣姿はもちろんですが、お母さん・おばあちゃん世代の方が浴衣を着られている様子がとても新鮮で、素敵だなあと心躍りました。

### 何と言われようと、河合の盆踊りは“15日”！



河合の盆踊りは、景德寺の境内で行われます。河合では、初鐘楼の提灯をお寺へ持ってきて、供養します。初盆の方には一層の想いを込めて、楽しく送ってあげよう！と盆踊りを開催すると聞き、「盆踊り」とはこんなに大勢の方たちの想いの込められた行事なのか…と感動しました。みんなが踊りやすいように最初から踊り続けている女性、その場その場で素晴らしい音頭をとる男性方、お盆で帰省している若い子たちも踊りに混じり、いとこ親戚も混じり、子どもも混じり、「ご先祖様に感謝しよう。初盆の方を、楽しく送ってあげよう。」という想いで、笑顔で歌って踊っている空間に、心打たれました。そして、お盆行事の大切さを実感しました。音頭の中で、「最初から踊ってくれているひさえちゃん、本当に可愛いよ！」などと歌いながら声を掛ける場面もあり、粋だなあと、ぐっときました。聞き惚れました。ビンゴ大会では、豪華景品の数々に皆さん大興奮！大盛り上がりでした。ビンゴ大会の後、人が少しずつ帰りはじめつつも、多くの方が踊り続け、お祭りが終了しました。久しぶりの人も、よく会う人も、盆踊りで顔を合わせて、声を掛け合っている様子がとても素敵でした。



# 村おこし弁当

8月21日(水)川上村役場にて、第1回目の勉強会が行われました。  
吉野町、下北山村、川上村など15名ほどの方が参加されていました。



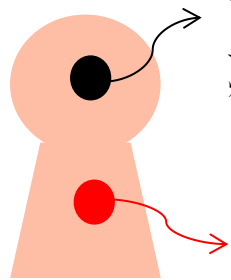
## ★小学生が考えたお弁当★

～実際に営業販売されます！～

【テーマ】山辺の道

【ターゲット】9～15歳の子どものいる、30歳～60歳のお母さん

【コンセプト】親子で2個頼んでもらえるように、あまり大きくなく、食べきれるサイズ。



古墳の形のお弁当箱。  
上の部分には、  
炊き込みご飯。

下の部分は、6つのおかずを入れる。太陽をイメージしたそうめんや、草をイメージしたきゅうりのサラダなど。

## 村外者から見た、 村の魅力。(1)

—田舎でしか見られない、  
店先での風景。

商店の店先に、ウルメイワシがありました。私たち協力隊が眺めていると、ご主人が「目がウルウルしているから、ウルメイワシというんだよ。」と教えてくれました。更に「手で簡単に開けるのよ。」と、たまたま居合わせた料理上手なお母さんが、店先のウルメイワシをひょいっと手に取って、指で開いて見せてくれました。私たちは感動して、いくつか自分たちで開かせてもらいました。(もちろん、お母さんに教えてもらいながらです。)店に入った時は、まさかこんな風に手ほどきしてもらえんと思っていなかったもので、温かい気持ちになりました。その晩、かおりんの家で、カルパッチョにして食べました。自分たちで料理して食べたウルメイワシは、とても美味しかったです。

お母さん、商店の方々、ありがとうございました。



## コミュニティデザイナー 山崎亮さんのお話を聞いてきました。

—私の、したいこと。そのまんまが仕事になっているんです。学生の頃から興味があって、今も理想だなあと思う「人と人をつなぐ」ことを仕事にされている方のお話を伺ってきました。ぜひ紹介したいと思い、以下記載します。

—コミュニティデザイナーとは？

右肩下がりの経済や人口減少が続く中、建物や道路を作るのではなく、「コミュニティデザイン」という新たな手法を使い、活況を呈する町や村があります。例えば、瀬戸内の小さな過疎の島では、主婦たちが特産品を開発するなどし、働く場所を創出、さらには地域のための乗り合いバスを走らせるなどし、町は活気を取り戻し始めました。人と人の“つながり”を広げることで活力を生み出すという「コミュニティデザイン」、その第一人者の山崎亮さんは、これまで20の自治体を成功に導き、現在、全国から依頼が殺到している。ポイントは、住民自らに課題や魅力を発見させ、自分たちの手で解決法を考えさせることだということ。お金をかけず、もともとその地域にある“資源”と人材を活用することで、持続可能な発展へと導く“コミュニティデザイン”。(引用文)

—それを、村でどう活かすのか？

上記の仕事は、とても私のような人間のできることはないと思います。しかし、とても興味があります。もし、村でも興味のある方がおられましたら、一緒に勉強しませんか。9月・10月に、お隣の川上村、森と水の源流館にて、コミュニティデザイン講座が行われます。個人的にとっても行きたいのですが、ヒルクライム大台ヶ原とふれあい祭りと被っておりまして…。皆様も参加は難しいかもしれませんが、興味のある方は、「こんなことしたいねー！」とお話合えたら嬉しいです。

## 夏休み最後の祭りを満喫！ふるさと上北夏祭り



今年は雨天により、清流橋でなく役場周辺で開催されました。役場前が提灯やのぼりで一気に祭りらしく彩られ、大勢の方が参加されました。村外から来られていた方は「こんなに大勢が集まる行事があって、この村すごくいいね。」と感動していました。ダンスでは村の方が数名乱入する場面があり、笑い声や大きな手拍子が飛び交い、大盛り上がりでした。すべての地区の方たちが集える夏祭りという場は、素晴らしいですね。

